

PEACE BOAT

Since 1983

水先案内人・プロジェクト紹介



ピースボート地球一周の船旅 2025 年 4 月 Voyage120

水先案内人とは…?

ジャーナリスト、エンターテイナー、作家、NGO 活動家、大学教授…。

ピースボートクルーズには、国内外の各分野の専門家が乗船します。

「先生」ではなく、「同航者」の一人として、

旅をより有意義なものへと導くナビゲーターのみなさんを、

ピースボートでは「水先案内人」（通称：水案【みずあん】）と呼んでいます。

洋上では水先案内人による、訪問する国々の文化や社会問題をわかりやすく、

かつ鋭く語る講座やイベントが目白押しです。



横浜
≡
シンガポール

加藤 千洋

KATO Chihiro

ジャーナリスト、元朝日新聞編集員、平安女学院大学客員教授、前同志社大学大学院教授



1972年朝日新聞社入社。大阪社会部などを経て、北京特派員、アジア総局長(バンコク)、中国総局長(北京)として中国・アジアに関わった後、外報部長、テレビ朝日系「報道ステーション」の初代コメンテーターも歴任。2010年4月から2018年3月まで同志社大学大学院教授。現在、平安女学院大学客員教授を務める。ボーン上田記念国際記者賞(1999年度)、日本新聞協会賞(2002年企画部門、グループ受賞)受賞。著書に『胡同の記憶—北京夢華録』(岩波現代文庫)、『棘の道 トウガラシ 2500 キロの旅』(平凡社)、『「知」の挑戦 本と新聞の大学』(集英社新書)、『沙飛』(平凡社)など。



横浜
≡
シンガポール

張 大順

チョウ・タイジュン CHOU Taijun

書家、篆刻家、甲骨文学者、甲骨文書道「亀鑑塾」代表



中国西安出身。ユネスコ平和芸術家(2019年)、世界華人傑出芸術家(2000年 中国文化部)、甲骨文習刻図案解説者。来日30年一途に研究・模索し、甲骨文書道独自の理論体系を確立。日本書壇の「甲骨文書道研究・表現第一人者」である。現代甲骨文書道の古典を創る「東京宣言」を発表し、甲骨文書道専門家百人育成プロジェクトや「東京国際甲骨文芸術祭」を提唱・実施。甲骨文書道と日本文化の融合を主な活動テーマとする。近年、漢字文化の新たな発展と表現活動にも注力。NHK ラジオ番組、テレビ、雑誌等で紹介される他、著書に『甲骨文でかく吉語名句』(二玄社)、『張大順の甲骨文書法 入門編』(木耳社)等多数。



横浜
≡
シンガポール

深津 高子

FUKATSU Takako

ピースボート洋上保育園「子どもの家」アドバイザー、国際モンテッソーリ協会公認教師、一般社団法人「AMI 友の会 NIPPON」副理事長



1980年代、タイに避難してくるインドシナ三国(ベトナム・ラオス・カンボジア)の難民の救援活動に関わる。現地で「なぜ戦争は始まるのか?」「なぜ難民が出るのか?」と自問中、キャンプ内の保育園で「平和は子どもからはじまる」という言葉に出会う。帰国後、幼児期からの平和教育について学び、東京都府中市の「子どもの家」に勤務。現在は「こどものつうやく」として保護者や保育者向けの講演会やモンテッソーリ教育関連の通訳・翻訳、またオーガニックカフェでの子育て相談などを通して「子どもからはじまる平和」を広めている。船内では「緊急救援か?教育か?」、「地球の新入社員としての子ども」、「都市計画に子どもの声を!」、「選挙に行く人を増やすためにできること」など、多様なテーマでお話いただく。現在、クレヨンハウス発行「クーヨン」に「子どものつぶやき観察」を連載中(船内でも販売予定)。

ピースボートとSDGs



ピースボートは、国連経済社会理事会(ECOSOC)との特別協議資格を持つNGOとして、国連が採択した「持続可能な開発目標」(以下SDGs)の達成を目指すさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから成り立っています。船体にこのSDGsのロゴマークをペイントし、世界中の港で、SDGsの重要性をアピールしています。船内でも、水先案内人の講義やワークショップ、ピースボート参加者との交流などを通じて、SDGsの達成に取り組んでいます。17のゴールから、それぞれの水先案内人の活動分野に関連するアイコンを掲載しています。



横浜
≡
横浜

四角 大輔 YOSUMI Daisuke

作家、森の生活者、環境保護アンバサダー



ニュージーランド湖畔の森でサステナブルな自給自足ライフを営み、場所・時間・お金に縛られず、組織や制度に依存しない生き方を構築。レコード会社プロデューサー時代に、10回のミリオンヒットを記録。Greenpeace JapanとFairtrade Japanの日本人初アンバサダー、環境省アンバサダーを務める。会員制コミュニティ〈LifestyleDesign.Camp〉主宰。ポッドキャスト〈noiseless world〉ナビゲーター。『超ミニマル・ライフ』（ダイヤモンド社）、『超ミニマル主義』（ダイヤモンド社）、『人生やらなくていいリスト』（講談社）、『自由であり続けるために20代で捨てるべき50のこと』（サンクチュアリ出版）、『バックパッキング登山大全』（エイ出版社）など著書多数。



深圳
≡
ハロン

井上 高志 INOUE Takashi

NPO 法人 PEACE DAY 代表理事



1997年ネクスト（現 LIFULL）を設立。不動産・住宅情報サービス「HOME'S（現：LIFULLHOME'S）」を日本最大級のサイトに育て上げる。コーポレートメッセージは、「あらゆる LIFE を、FULL に。」で、不動産領域だけでなく、地方創生、介護など、社会課題を解決するさまざまな領域の事業を LIFULLグループとして展開。個人としての究極の目標は「世界平和」で、NPO 法人 PEACE DAY では、単に戦争のない消極的平和（Negative peace）の状態のみならず、戦争がなく、貧困・飢餓・抑圧・差別など社会構造に起因する間接的な暴力（構造的暴力）もない積極的平和（Positive peace）の状態が広く世界で実現することを目指して活動。ナスコンバレー協議会代表理事、新経済連盟理事、Well-being for Planet Earth 評議員なども務める。



シンガポール
≡
ポートリス

王 淼 ウェン・ミャオ WANG Miao

海洋 NPO「无境深藍」(Better Blue) 創立者、マーメイドライフコーチ、極地旅行ガイド



海洋 NPO「无境深藍 (Better Blue)」の取り組みは、ダイビングを通じてより多くの人に海に親しんでもらうこと。Better Blue は毎年平均 200 回以上の海洋保護に関する活動を行い、一緒に活動をする著名人は 50 名を超える。2018 年、国連主催の「Young Champions of the Earth」（18～30 歳の環境に関する起業家へ贈られる賞）を中国人として初めて受賞。2020 年、ファッション誌『VOGUE』主催の「BVLGARI AVRORA AWARDS Inspiring Women」（様々な分野の第一線で活躍する 10 人の女性への賞）にも選ばれた。国連総会、国連環境総会（UNEA）等で講演する他、気候変動について語る「TED Countdown」青年理事会の理事なども務める。



シンガポール
≡
ポートエリザベス

品川 夏乃 SHINAGAWA Natsumo

紛争地域における環境問題の専門家



早稲田大学在学中から、ウガンダに長期留学するなどアフリカとの関わりを持つようになる。卒業後は、在セネガル日本国大使館、国際開発を専門に取り扱う戦略コンサルティングファームであるダルバーク、国連機関など、様々な組織で勤務しながら、アフリカ各国にて約 13 年生活する。2020 年、日本／世界銀行共同大学院奨学生として、オックスフォード大学公共政策大学院にて修士号を取得。その後、世界銀行を経て、アフリカ最古の国立公園であるヴィルンガ国立公園（コンゴ民主共和国）にて、国立公園の生態系やコンゴ東部の戦争と資源搾取の関連性など、様々な情報を収集・分析する業務に就く。2024 年秋よりアムステルダム在住。現在は「紛争地域における環境問題」の専門家として国際機関のプロジェクトに関わる。また、社会企業である Egregor を設立し、世界各国のコミュニティが直面する社会・環境問題の解決を現地の人々と一緒に解決する枠組み作りを行っている。



シンガポール
≡
ケープタウン

のはら ヒロコ NOHARA Hiroko

ミュージシャン

茨城県生まれ。幼少期よりピアノを習い音楽に親しむ。大学時代にはブラジル音楽に傾倒し歌い始める。卒業後、日本のゴスペルシンガーの第一人者亀渕友香さんを中心に 1993 年に結成されたゴスペルを主とするクワイア「The Voices of Japan (VOJA)」に 2018 年まで所属。これまでに Superfly、葉加瀬太郎、LOVE PSYCHEDELICO ほかさまざまなアーティストのバックコーラスを始め、ゴスペルクワイアでの講師を務める。近年は、ハワイアンステージでも歌うなどジャンルにとらわれない活動を展開中。船内では、毎回大好評のゴスペルワークショップで歌う楽しさを伝えていただく。



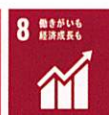
ポートリス
≡
ポートエリザベス

リンダ・ファン・アウトウユースデン

Linda VAN OUDHEUSDEN

ミッションヴェール・ケアセンター マーケティングマネージャー

教育、ヘルスケア、能力開発などの幅広いサービスを提供するミッションヴェール・ケアセンターにてマーケティングマネージャーを務める。ミッションヴェール・ケア・センターは、ネルソン・マンデラ・ベイの Gqeberha (ポートエリザベス) 地区郊外のミッションヴェール地区にある非営利団体であり、1998 年にシスター・エセル・ノルモイルによって設立された。彼女の 15 年にわたる貢献により、ミッションヴェール・ケアセンターは多くの賞を受賞している。ウブントゥ (すべての人々は相互の関係性の中でこそ真の人間性がはぐくまれるという哲学) の精神とシスター・エセル・ノルモイルの偉業に根ざした活動に情熱をもち、「人々は雇用主であり、インスピレーションとモチベーションの源である」という信念で活動を続けている。



ポートリス
≡
ケープタウン

安藤 シロー ANDO Shiro

哲学コンサルタント、作家

米国ボストン出身。30 年近くにわたり、国際 NGO や多国籍企業に在籍しながらミャンマーを含む閉鎖的なコミュニティや紛争地域で活動してきた。哲学を基盤とした平和交渉、紛争解決、戦後の発展を専門とし、フランスにある Institut de Pratiques Philosophiques (IPP) では哲学コンサルティングコーチも務める。これまでに 50 冊以上の著書を出版しており、その多くは公式の教科書に採用されている。2021 年のミャンマーにおける軍事クーデター後は、治安上の理由によりその職を辞さざるを得なかった。ミャンマーの政治情勢の好転を待ちながら、ソクラテス的対話、クリティカル・シンキング、哲学コンサルティングの専門家を世界中で育成し、人生のあらゆる瞬間を満喫している。



ポートリス
≡
ポルト

檀 怀宇 タン・ホアイユー TAN Huaiyu

文化研究家、世界遺産講師

中国国家博物館、故宮博物院、敦煌研究院、雲崗石窟博物院、龍門石窟研究院、大足石刻研究院などの研究機関や、中国国内外の多くの大学と専門学校で世界遺産に関する講座を行っている。これまでに、57 カ国 363 の世界遺産を訪問し、86 日連続で世界中を旅行した経験も。中国国営放送局である北京電視台の文芸・交通・都市情報・中国国際放送などのチャンネルに長年ゲストとして出演してきた。また、コラムニストや旅行家、切手収集家としての顔も持つ。船内では、訪れる各地域の世界遺産にまつわる講座を行う予定。





ケープタウン
≡
テネリフェ

小関 高明 OZEKI Takaaki

関西モバイルプラネタリウム代表

1952 年高知県生まれ、兵庫県在住。東京学芸大学大学院卒業後、中学や高校教員としての勤務を経て、姫路科学館及び姫路市宿泊型児童館『星の子館』にて、プラネタリウムや大型天体望遠鏡を使った天文教育に携わる。2008 年日本公開天文台協会（JAPOS）会長を務める。2014 年関西モバイルプラネタリウムを設立。おもに彗星の写真を撮っていて、NHK「おはよう日本」で紹介された。最近は、モバイルプラネタリウムの他、スマート望遠鏡（スマートフォンでコントロールする、カメラ内蔵の望遠鏡）を使って天体観望会を行っている。著書に、『ハレーすい星：76 年目の出あい』（小学館）、『天体写真の撮り方Ⅰ・Ⅱ』（ニューサイエンス社・共著）など。



ケープタウン
≡
テネリフェ

吉岡 淳 YOSHIOKA Atsushi

カフェスロー代表、カフェローカル代表、NHK 文化センター世界遺産講師、元日本ユネスコ協会連盟事務局長、ナマケモノ倶楽部理事

日本ユネスコ協会連盟の元事務局長として、30 年にわたり世界遺産の保護や広報活動に携わる。南米エクアドルで先住民族の生き方に触れたことをきっかけに、地域のできる地球に優しいライフスタイルを提案するオーガニック料理の店「カフェスロー」を 2001 年に設立。2019 年から、カフェスローに加えて東京・国分寺駅ビルに「カフェローカル」をオープンし、地域の食材を使った料理とオーガニックメニューを提供している。船内では世界遺産を通して地球 46 億年の歴史と人類文明や、コミュニティビジネスとしてのスローカフェの作り方などのテーマで企画を行う予定。著書に『しあわせ cafe のレシピ〜カフェスローものがたり』（自然食通信社）がある。



ケープタウン
≡
レイキャビク

ヤスナ・バステイチ Jasna BASTIC

ジャーナリスト、ピースボートスタッフ

ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボ生まれ。1994 年に戦争難民として逃れ、以来スイスのチューリッヒ在住。ジャーナリストとして活動し、スイスのテレビ局で紛争関連の報道のリポーターを務める。ピースボートでは、紛争などの危機的な状況が続く地域の学生や NGO、活動家に向けた「インターナショナル・スチューデント・プログラム」の責任者を務めながら、その他の各種プロジェクトにも携わる。船内では、主にメディア・リテラシーやプロパガンダ、フェイクニュース、歴史認識における SNS の利用についてなどの講演を行う。兵士が抱える戦場のトラウマに関する著書を書き終えたばかり。好きなものはブルース音楽や映画、日本画。



テネリフェ
≡
ハンブルク

ミランダ・シュラーズ Miranda SCHREURS

ミュンヘン工科大学公共政策・政治学ミュンヘン校 気候・環境政策学部主任教授

環境保護活動、環境政策、気候政策の策定について、比較的小よび国際的な観点から研究に携わる。ヨーロッパ、米国、アジアにおける研究経験を持ち、2011 年にはアンゲラ・メルケル首相（当時）により、安全なエネルギー供給のための倫理委員会の委員に任命される。2016 年には、ドイツ連邦議会により、高レベル放射性廃棄物の処分場選定において市民の声を反映させ、透明性を高めることを目的として設立された委員会の委員に任命された。2008 年から 2016 年までドイツ環境評議会の委員を務め、欧州環境および持続可能な開発諮問委員会では副委員長と委員長を兼任した。





テネリフェ
≡
ベルゲン

DRAGON76

壁画アーティスト、ペインター

滋賀県生まれ。2016年よりニューヨークを拠点にストリートアートをベースとした壁画アーティストとして活動。これまでに手掛けた最大の壁画は2021年に米国テキサス州で制作した256フィート×53フィート。国連の委託を受けて制作した。他、米国の48か所で壁画を残す。ART BATTLE NYで3度優勝、2018年US CHAMPIONSHIPで優勝し初代全米チャンピオンとなる。New EraやXLargeなどのブランドとコラボレーションも数多くしている。また、Dragon76のアイデンティティである日本の伝統的な侍を現代風にアップデートしたオリジナルキャラクター玩具「DR76」は数分で完売。



ポルト
≡
ハンブルク

中谷 剛

NAKATANI Takeshi

通訳、翻訳家

ポーランド国立アウシュヴィッツビルケナウ博物館における唯一の日本人公式ガイド。学生時代の1987年、初めてポーランドに旅行で訪れる。その後3年間の会社勤めを経て、退職。再びポーランドに赴き、1991年よりポーランドに移住。1997年にはオシフィエンチム博物館公式ガイド資格を取得する。著書に『新訂増補版・アウシュヴィッツ博物館案内』（凱風社）、『ホロコストを次世代に伝えるーアウシュヴィッツ・ミュージアムのガイドとして』（岩波書店）など。



ハンブルク
≡
レイキャビク

タニヤ・M・イースフォルド・ マグヌスドットイル

Tanja M. ÍSLEIFDÓTTIR

NGO「Öfgar」共同創業者

アイスランド出身。暴力について議論することが一般的ではなかった小さな町で生まれ育ったが、自身が暴力にさらされたことをきっかけに、その流れに立ち向かうことを決意。アイスランドにおいて、ジェンダーに基づく暴力に対する問題意識を高め、被害者を擁護し、司法制度の変革を求めて活動するなど、性暴力に反対するキャンペーンを10年間にわたり積極的に展開している。NGO「Öfgar」を共同設立し、その功績により、アイスランド人権センターからの表彰や賞を受賞している。国連委員会向けのアイスランドの女性条約実施に関する最新のシャドーレポートの執筆にも参加。2021年には、子どもや、世界平和、人権に対する活動を通しての貢献が認められ、国際青年会議所（JCI）から優秀なアイスランドの若者として推薦された。心理学の学士号を取得し、アイスランドの労働市場において女性がハラセメントにさらされている状況を分析した「#Me Too」運動に関する学士論文を執筆した。





ベルゲン
≡
レイキャビク

メリッサ・パーク Melissa PARKE

核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 事務局長



1990年代に、故郷の西オーストラリア州における核廃棄物処理場の設置に反対するキャンペーンに参加したことがきっかけで核問題に取り組み始める。核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) の事務局長、および元オーストラリア政府国際開発大臣として、国際的に活動が続いている。フリーマントル選出の労働党議員 (2007年～2016年) として核軍縮を推進し、オーストラリア・国連議員グループを設立、地球規模問題に取り組む議員連盟の議長を担う。また、国際弁護士の国連職員として、コンゴ、ガザ地区、ニューヨーク、レバノン (1999年～2007年) での勤務を経て、国連イエメン賢人専門家会議のメンバーを務める。BRAC、西オーストラリア博物館、西オーストラリア州保健局、オーストラリア動物愛護団体、アニマルズ・オーストラリアの理事を歴任し、社会正義、健康、環境、地球のウェルビーイングに貢献し続けている。2023年9月より ICAN の事務局長を務めている。



ベルゲン
≡
ニューヨーク

ジョナサン・ソーブル Jonathan SOBLE

ジャーナリスト



カナダ出身の元新聞記者。15年間、東京を拠点にニューヨーク・タイムズやロイター通信など、海外メディアに記事を発信。高校・大学時代に交換留学で来日。トロント大学卒業後、JET プログラム (外国語青年招致事業) に参加し、高知県庁に3年間勤務。後に米コロンビア大学ジャーナリズム大学院に入学。修士号を取得後、2002年にダウジョーンズ経済通信 (東京支局) の記者となり、2004年からはロイター通信東京支局で勤務。2007年に英フィナンシャル・タイムズ東京支局へ入社し、2012年から同紙東京支局長、2015年からニューヨーク・タイムズ東京支局特派員を務める。現職はスウェーデン・ストックホルムに本社を持つコミュニケーション・コンサルティング会社 (東京支社) の役員。記者時代には、福島原発事故やオリンパス巨額損失隠し事件の報道で複数のジャーナリズム賞を受賞。



ベルゲン
≡
ニューヨーク

マライア・イレト (マヤ) Malaya ILETO (Maya)

ジャイロキネシス® 認定マスタートレーナー



ジャイロトニック®、ジャイロキネシス®、ピラティスのメソッドを柱とするエクササイズを提供している都内のスタジオにて指導。幅広い客層を対象にし、手術から回復中の方や、腰痛で悩んでいる方、アスリートやプロダンサーなどのプライベートセッションを担当。また、バレエスクールで講師を務め、新進のバレリーナたちが健康で長いキャリアを楽しめるよう、身体のケア方法を指導している。長野県北部にある築150年の古民家を改装したスタジオを2022年にオープンし、東京や海外での指導を続けながら、この隠れ家で指導者育成講座も開催している。子どもから高齢者まで、さまざまな体力レベルの人々にフィットするエクササイズとしてジャイロキネシス®を推奨。身体をもっと楽に、しなやかに動かせることを多くの人に知ってほしいと願っている。



ベルゲン
≡
ニューヨーク

メアリー・ディクソン Mary DICKSON

脚本家、風下住民



作家・脚本家・米国ユタ州ソルトレイクシティ出身の風下住民、甲状腺がんサバイバー。核実験被害者への援助を国際的に訴える活動家。日米の学会やフォーラムで核兵器の人間への影響について幅広く執筆や講演活動を行う。過去4年間、風下住民やウラン鉱山で働く労働者、また米国各地の支援団体と共に、核実験と核兵器製造による被害者への補償を拡大するよう米国議会での法案制定のために尽力してきた。ドキュメンタリー映画でのインタビュー多数。戯曲『Exposed』は批評家から絶賛され、全米各地のステージ上での朗読作品として上演されてきた。昨年、ユタ大学における環境人文科学プログラムの専門家を務めた。



ニューヨーク
≡
モンテゴベイ

ショーナ - ケイ・M・リチャーズ

Shorna - Kay M. RICHARDS

駐日ジャマイカ大使



1994年外務貿易省入省、米国、南アフリカ、国連代表部での勤務、二国間関係局長等を歴任し、2020年10月から現職。2022年より、国連事務総長の諮問機関として軍縮問題について事務総長に直接助言を行う国連軍縮諮問委員会の委員も務める。「私たちは小さいが、大きな力を持っている (We likkle but we tallawah!）」というジャマイカでよく使われる表現を切り口に、ジャマイカという小さな国が軍縮や平和教育、反アパルトヘイトなどの分野で世界に与えてきた影響の数々について、またカリブ地域の経済や社会について、外交官の経験から講演いただく。



ニューヨーク
≡
プンタレナス

ロベルト・サモラ Roberto ZAMORA

弁護士



コスタリカの独立弁護士として、主に憲法問題や人権保護に関連した訴訟に取り組んでいる。コスタリカの「永世中立」と「平和への権利」を強固に支持しており、この原則に違反したとして2人の元大統領を訴え、勝訴した。これにはパチェコ大統領（当時）が米国と英国主導のイラク侵攻を支持したことへの異議申し立て、およびアリアス大統領（当時）がコスタリカ国内での核燃料と原子炉の製造を許可したことへの異議申し立てが含まれる。国際連合平和大学にて国際法と人権の修士号を取得しており、世界社会フォーラムや世界平和フォーラムなど、数多くのフォーラムで講演を行っている。2014年から2015年には駐韓コスタリカ大使を務めた。2018年には、コスタリカにおける同性婚禁止を覆す裁判で勝訴し、公証人として同国初の同性婚を執り行った。



ニューヨーク
≡
マンサニージョ

NPO Casa Hogar Los Angelitos A.C 民族舞踊団

ダンスグループ



メキシコのマンサニージョにある Casa Hogar Los Angelitos は、1995年にナンシー・ニストロムによって設立された若者を支援する施設。衣食住などの基本的なニーズを満たすことに加えて心理的なサポートや虐待の悪循環を断ち切ること、自立支援などにも取り組む。今回は2003年に始まった同団体のダンスプログラムのメンバーが乗船。このダンスプログラムは今や伝統的な舞踊にバレエの要素を加えた踊りを通してメキシコの民俗文化を表現する世界的なダンスカンパニーに成長。カンパニーの一員になることで、子どもたちは自信をつけ、集団の中で協働することを学ぶほか、自分たちのルーツであるメキシコの文化への理解も深める。2009年に初の世界ツアーを行い、それ以降年に一度のペースでツアーを行う。



モンテゴベイ
≡
マンサニージョ

工藤 律子 KUDO Ritsuko

ジャーナリスト



1963 年大阪府生まれ。東京外国語大学地域研究研究科修士課程在籍中より、メキシコの貧困層の生活改善運動を研究するかたわら、フリーのジャーナリストとしてスペイン語圏を中心に取材活動始める。著書に『仲間と誇りと夢と』（JULA 出版局）、『ストリートチルドレン』（岩波ジュニア新書）、『マラス暴力に支配される少年たち』（集英社、開高健ノンフィクション賞受賞）、『マフィア国家 メキシコ麻薬戦争を生き抜く人々』（岩波書店）などがある。NGO「ストリートチルドレンを考える会」共同代表。



マンサニージョ
≡
バンクーバー

コロン えりか COLON Erika

ソプラノ歌手、ホワイトハンドコーラス NIPPON 芸術監督



ベネズエラ生まれ。聖心女子大学、大学院で教育学を学んだ後、英国王立音楽院声楽科修士課程を優秀賞で卒業。2019 年東京国際声楽コンクールにてグランプリ・歌曲部門で優勝。国内外で演奏活動を行う。キングレコードより「BRIDGE」をリリース。イタリア、フランス、イギリスでの音楽祭出演、国内外で演奏活動を続けながら、ホワイトハンドコーラス NIPPON の芸術監督として、視覚・聴覚など障害のある子どもたちに音楽を教えている。音楽による社会インクルージョンを目指した活動は 2024 年にバリアフリーの国際賞ゼロ・プロジェクトアワードを受賞。国際学会での発表や講演も精力的に行っている。4 児の母。



マンサニージョ
≡
スワード

李 琳 リー・リン LI Lin

世界自然保護基金（WWF）グローバルポリシー・アドボカシーシニアディレクター



2017 年より世界自然保護基金（WWF）グローバルポリシー・アドボカシーシニアディレクターを務める。国連生物多様性条約（CBD）や持続可能な開発目標（SDGs）のような多国間フォーラムにおいて、環境問題や生態系に関する問題について関心度を高め、具体的なコミットメントを引き出していくような活動を中心に行っている。



バンクーバー
≡
スワード

安藤 正康 ANDO Masayasu

HAI しろくまツアーズ代表



「アラスカの達人」と呼ばれるアラスカアドベンチャーのスペシャリスト。HAI しろくまツアーズ代表。常に新しい発想を持って、さまざまな角度から「最後のフロンティア」を紹介している。

HAI しろくまツアーズホームページ <http://www.haishirokuma.com/>



バンクーバー
≡
スワード

高野 孝子 TAKANO Takako

自然活動家、NPO 法人エコプラス代表理事、早稲田大学教授、立教大学客員教授

野外・環境・持続可能性教育、分野横断的な環境学を専門とする。地球上各地への自らの遠征や少数民族との旅の経験を踏まえ、1990 年代初めから「人と自然と異文化」をテーマに、地球規模の環境・野外教育プロジェクトの企画運営に取り組む。体験からの学びを重視し、「地域に根ざした教育」の重要性を提唱している。社会貢献活動に献身する女性 7 名に向けた「オメガアワード 2002」を緒方貞子さんや吉永小百合さんと共に受賞。2016 年春期早稲田大学ティーチングアワード受賞、2017 年ジャパンアウトドアリーダーズアワード (JOLA) 特別賞。環境ドキュメンタリー映画「地球交響曲第 7 番」に出演。著書に『野外で変わる子どもたち』（情報センター出版局）ほか多数。



バンクーバー
≡
横浜

権 赫泰 クォン・ヒョクテ KWON Heok-Tae

歴史学者、聖公会大学名誉教授

高麗大学校卒業後一橋大学に留学、日本経済史研究で博士号を取得。山口大学経済学部助教授を経て、定年まで聖公会大学教授を務める。主な著書に、日本で出版された『平和なき「平和主義」：戦後日本の思想と運動』（法政大学出版局）、韓国で出版された『日本の不安を読む』、『日本戦後の崩壊：サブカルチャー消費社会と世代』など、共著に『主権の野蛮』、『戦後の誕生』など（いずれも韓国で出版）。主に社会運動や日韓関係などを中心に日本の「戦後」を研究してきたが、最近では「ベトナム戦争と反戦運動」を韓国と日本を含む世界史的な次元で再び位置づけようと試みている。



ピースボート戦後80年特別プロジェクト「TIME FOR PEACE」 80 Years Since World War II - Special Project "TIME FOR PEACE"



戦後80年を迎える2025年、ピースボートは「TIME FOR PEACE(今こそ平和を)」と題した特別プロジェクトを行います。「過去の戦争をみつめ、未来の平和をつくる」というピースボート創設時の理念を掲げ直し、今も戦禍を生きるたくさんの人たちがいることに目を向けながら、世界の平和を改めて希求する取り組みです。とりわけ今クルーズにおいては、2024年のノーベル平和賞を受賞した日本被団協や2017年のノーベル平和賞受賞団体であるICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のメンバーも船に迎えながら、世界中で紛争予防・平和構築に携わる個人や団体とつながり、平和を訴えます。

ピースボート災害支援センター(PBV) Peace Boat Disaster Relief



国や地域を越えて、災害に立ち向かう

国連の発表では、過去50年間で世界での自然災害発生は5倍に増加しています。気候危機の影響により、今後も世界各地で気象災害の脅威が高まり続けています。特に世界の中でも、東アジアは地震や津波の被害を含め、大規模な災害に見舞われやすい地域です。日本では、30年以内に70%の確率で巨大地震が発生するといわれ、その犠牲者は32万人を超えると予想されています。国境や地域を越えて、支え合うことがこの脅威を乗り越える力になります。ピースボートでは、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、1999年の台湾大地震(921大地震)、2008年四川大地震など、世界各地で災害支援の活動を行ってきました。2011年の東日本大震災以降、継続的な支援活動を実施するためにピースボート災害支援センター(PBV)を設立し、のべ11万人のボランティアと共に、海外26ヶ国、日本国内70地域の支援活動を実施してきました。台風や水害、地震、豪雪災害などの被災地へ専門スタッフを派遣し緊急支援を行うほか、国際的なネットワークを活かした海外での人道支援も展開しています。これまでの災害支援現場で培ってきたノウハウをもとに、自分自身や家族、大切な人を守るすべや誰にでもできる被災地への支援方法など、分かりやすく学べる企画を用意しています。

ピースボート子どもの家 Montessori Programme



「平和は子どもからはじまる」をテーマに、異文化体験とモンテッソーリ教育を行う洋上保育園。2009年より180名以上の子どもとその保護者が参加しています。差別心や固定概念がない幼い子ども時代に、自分と異なる皮膚の色、違う言語や食べ物、見たことのない動植物、壮大な地形や建造物など、ありとあらゆる「違い」に出会い、心から感動できる体験を重ねることは、その後の人生のために豊かな感受性の裾野を広げる人格を形成することとなり、何よりの平和づくりだと言えます。乗船したご家族には「モンテッソーリ教育を知り、大らかに子どもを見守るようになった」「親子で旅をしたことで、好奇心旺盛でマイペースな子どもの性格は、伸ばしてあげるべき“個性”なんだと認識が変わった」「親子で成長できた」など、嬉しい声をいただいています。幼い子ども連れの親子や三世家族の地球一周を応援するプログラムです。

ヒバクシャ地球一周:証言の航海(おりづるプロジェクト) Global Voyages for a Nuclear-Free World: Peace Boat Hibakusha Project (Orizuru Project)



世代と国境を越えて

2008年に始まったこのプロジェクトは、広島・長崎の被爆者とともに船旅を通じて世界各地で証言会を実施し、核廃絶のメッセージを世界に届けています。これまでに170名を超える被爆者とともに証言の航海を行いました。2017年、被爆者や世界の核実験被害者の長年の訴えに応える形で誕生し採択された核兵器禁止条約により、世界的に核兵器を無くそうという機運が高まっています。しかし今もなお、核兵器の威力を誇示した威嚇や武力侵攻、戦争が続いています。今クルーズでは、広島・長崎の原爆や世界各地の核実験が人間に何をもたらしてきたのか、核兵器の非人道性とはなんなのかを今一度みつめなおし、世代と国境を越えて核兵器禁止条約への参加を促し、核兵器をなくすための具体的な歩みを強めていきます。船内での企画だけでなく、寄港地ではパートナー団体との交流や政府関係者との面会を予定しています。

*この冊子に記載している情報は、予告なく追加・変更があることもございます。予めご了承ください。

PHOTOS : PEACE BOAT